

9-01 視覚障害とスポーツ

ミガ-カフォト(Migu1c)×16pt 版、2018-8-12 作成

視覚障害者のロウイングを指導・支援するコーチやスタッフが、知っておくべき、基礎的な知識、注意事項を解説します。

1 視覚障害に対する心構え：配慮と情報共有

視覚障害は、全盲から視野の制限まで、視力と視野、環境による変化など、程度は様々です。障害の原因も、疾病、事故、出生時の損傷、加齢など様々です。コーチや支援者は、プライバシーに配慮し、個人の障害の原因を詳しく知る必要はありません。しかし障害の程度や、健康上気をつけるべき配慮事項は、共有しておく必要があります。例えば、強い物理的衝撃に注意しなければならない、といったことです。

2 視覚障害（支援者が知っておくべきこと）

福祉政策の中で、視覚障害は1～6級に区分されています。

- 1級　： 両眼の視力の和が0.01以下。
- 2級　： 両眼の視力の和が0.02～0.04。または両眼の視野が各10度以内でかつ両眼による視野について視能率による損失率が95%以上。
- 3級　： 両眼の視力の和が0.05～0.08。または両眼の視野が各10度以内でかつ両眼による視野について視能率による損失率が90%以上。

4級 : 両眼の視力の和が0.09～0.12。または両眼の視野が各10度以内。

5級 : 両眼の視力の和が0.13～0.2。または両眼の視野の1/2以上が欠ける。

6級 : 片方の視力が0.02以下、もう片方の視力が0.6以下で、両眼の視力の和が0.2を超える。

※ 同一等級で、重複する（例：視力、視野ともに）障害がある場合は、1級上。

視力や視野の具体的な状況について、説明してもらっておけば、指導・支援がより適切に行えるようになります。

2 視覚障害者のスポーツ（一般）

視覚障害者のスポーツは、IBSA：国際視覚障害者スポーツ協会、JPC：日本パラリンピック委員会、財団法人日本障害者スポーツ協会などが支援しています。

パラリンピックでは、陸上、水泳、柔道、ヨット、サッカー、射撃、自転車、ゴールボール、スキー、**パラロウイング**などがあります。他に視覚障害者のスポーツとして、グランドソフトボール、フロアバレーボール、サウンドテーブルテニス、ブラインドテニス、バスケットボール、フットボール、アーチェリー、パワーリフティング、レスリング、ボウリングなどもあります。